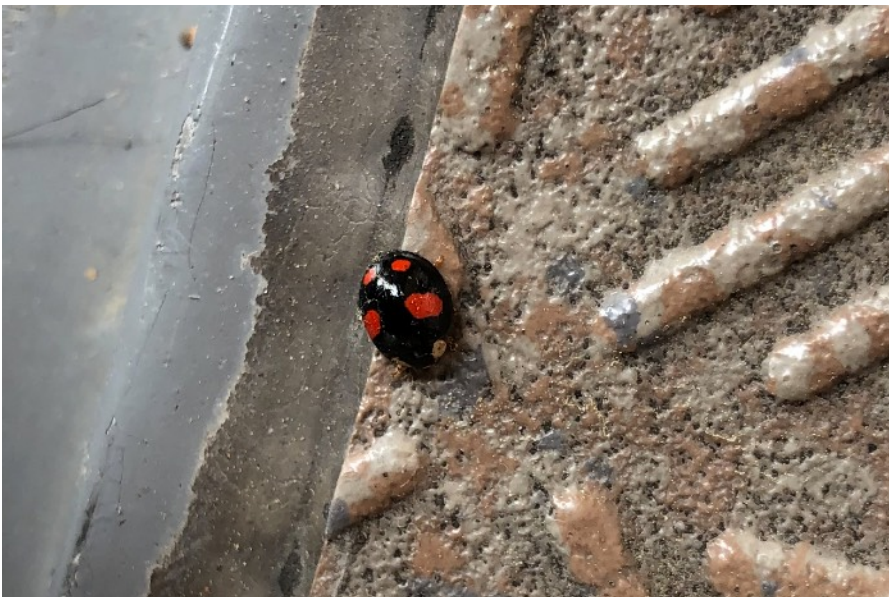


ナミテントウ七変化

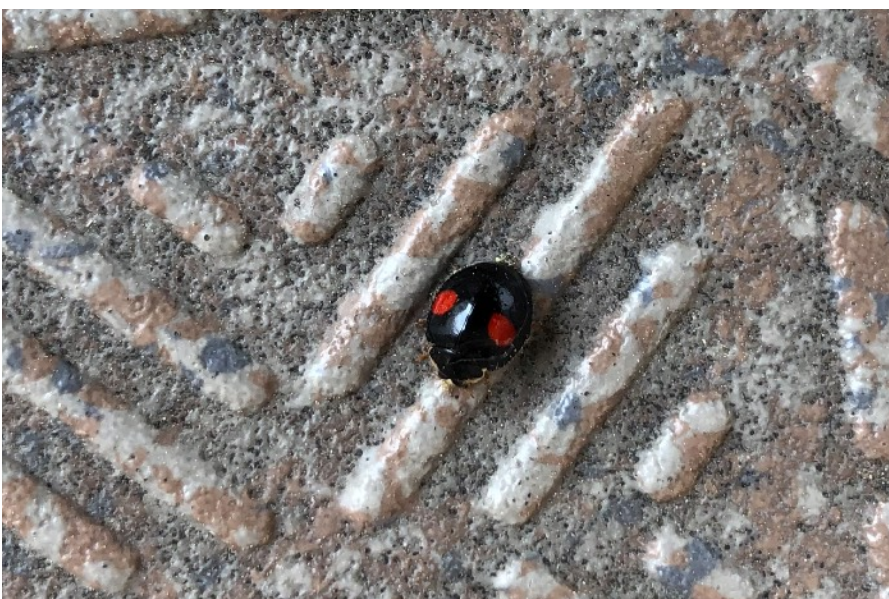
ある日、テントウムシの絵を描いて持ってきた児童がいました。

黒い羽に赤い点が4つ。「なんて言うてんとう虫？」ときくと、「ナミテントウ。」と答えてくれました。

ナミテントウは斑紋多型といい、羽の色や模様のバリエーションが多いことで知られています。



黒地に赤の斑点が
4つ。
四紋型と言われま
す。



黒地に赤の斑点が2
つ。
二紋型といわれま
す。



二紋型でも斑紋の形が流れています。



全体が黄色で黒いかすれた斑点がありますが、**紅型**というようです。



黒地に黄色い斑紋です。



エノキの葉にとまっている、ナミテントウ。
アブラムシを食べているようです。

結構、てんとう虫の仲間自体、似通った斑紋があり、仲間分けには自信がありませんが、ほんとにいろんなパターンが見られるようです。

教科書に載っているナナホシテントウは赤い羽根に黒い斑点が7つと模様が決まっているのに、どうしてナミテントウは多様な（約200パターン）模様がみられるのでしょうか。

最近の研究で、黒い色素の生成に関わる遺伝子のある部分の配列に違いがあり、それによって多様な模様が発現されていることが明らかにされたそうです。

Academist Journal <https://academist-cf.com/journal/?p=9132> より。

こうした多様性は、ナミテントウが環境に適応するためにどう役立っていくのでしょうか？興味がつきません。